

2023 全日本ロードレース 開幕!



昨年までのコロナ禍の規制が外れ、レースファンに待望の全日本ロードレース選手権が、ここ、もてぎからいよいよ開幕した。

今年からJSB1000クラスには指定ガソリンが採用されることになり、各チーム試行錯誤の中

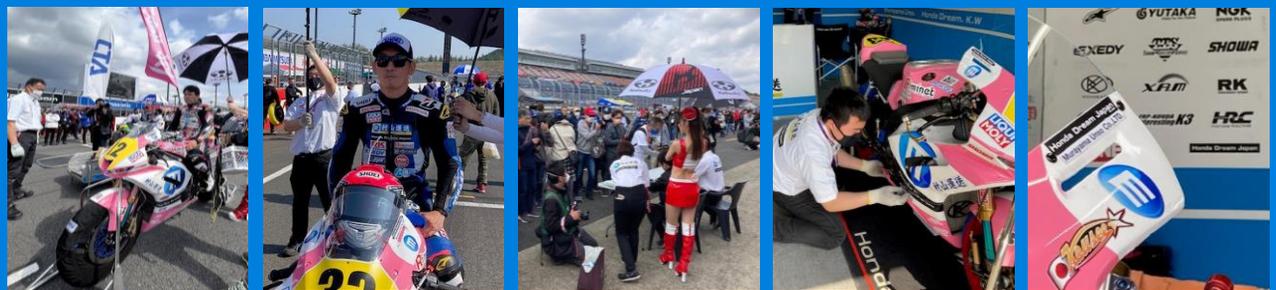
MurayamaUnso.Honda Dream.K.Wも事前にもてぎのスポーツ走行で、カーボンニュートラルガソリンでの影響も把握した上で、テストを実施、開幕戦にのぞんだ。

今回はレギュラーの秋吉耕佑と2023年 鈴鹿8時間耐久ロードレースでライダーを務める予定の今野由寛もスポット参戦。

4/1(土)の予選では、前日2日間の走行でマシンの調整を順調に進め、チーム内で目標としていた秋吉1'48秒台、今野1'50秒台のタイムを出し8番手と18番手で当日のレース1を戦うことになった。午前の予選結果からレース1では秋吉8番グリッドからのスタート。ベストタイム1'49.671、結果7位という満足するスタートが切れた。今野は18番グリッドからのスタート。昨年に比べマシンは改善されており、秋吉セッティングでもベストタイムは1'52.494、久しぶりのレース、緊張からかジャンプスタートによるペナルティを受けた結果20位となってしまったが、レース2には期待できる走りを見せた。4/2(日)のレース2では前日の予選のセカンドタイムでグリッドが決定。秋吉はレース1と同様、8番グリッドからのスタートとなった。しかし朝のフリー走行で転倒、マシンを破損、何とか修復し決勝に臨むが、サイティングラップでマシンに異常を感じ、グリッド上で不具合と思われる部品を交換。すこし不安の残る状態だが、レースがスタートし、第2コーナーまでマシンの動きを確認しながら走行、問題無しと判断、本気モードに切り替えた。途中、わずかに雨がパラつく場面もあったがレースはそのまま進行、後半はブレーキ関連のネガもみられたが、ベストタイム1'49.363、で堂々の6位でチェッカーを受けた。又、今野は予選セカンドタイムの17番グリッドからのスタート。レース1同様に安定した走りを見せ、ベストタイム1'52.598、ポジションを上げ、13位という結果を残した。

【今回のメカニックサポート】 ホンダドリーム郡山/サービススタッフ1名

今年もホンダドリームジャパンは秋吉選手のチームにレースサポートを実施、第1戦もてぎ大会ではホンダドリーム郡山のスタッフがサポートで合流、日曜の朝のフリー走行で転倒した秋吉選手のマシンの修復にも活躍、国内トップカテゴリーのレースに触れ貴重な体験を得た。



【第1戦 レース結果】

- ・決勝レース1(15周) 秋吉耕佑選手：7位 今野由寛選手：20位 (スポット)
- ・決勝レース2(20周) 秋吉耕佑選手：6位 今野由寛選手：13位 (スポット)